

平成27年度第2回広島市都市デザインアドバイザー会議 会議要旨

1 開催日時 平成28年(2016年)1月19日 14時30分～16時30分

2 開催場所 広島市議会議事堂3階 第1委員会室

3 出席者

(1)出席委員(5名)

岡河 貢、伏見 清香、鰐澤 達夫、柏尾 浩一郎、西村 不可止

(2)欠席委員(2名)

岩重 律子、清田 誠良

4 報告事項

(1) 都市計画道路高陽可部線(3工区)の橋りょう新設について

5 議題 (1)新しいタイプの高等学校整備について

6 公開・非公開の別 公開

7 傍聴者 一般傍聴者 0名

傍聴者(マスコミ関係) 1名

8 会議資料

報告資料 都市計画道路高陽可部線(3工区)の橋りょう新設

会議次第、委員名簿、広島市出席者名簿、配席表

議事資料1 新しいタイプの高等学校整備について

9 発言の要旨

○萬ヶ原都市デザイン担当課長

開会挨拶

都市計画道路高陽可部線(3工区)の橋りょう新設について報告事項があるので、説明させていただきます。

この案件については、3つの理由により、広島市都市デザインアドバイザー会議開催要綱第3条第2項の規定によって、協議の対象土木構造物から除くものとする。この会議の場でアドバイスを頂く対象から外させていただきたいということである。

広島市都市デザインアドバイザー会議開催要綱第3条第2項は対象施設を規定して。第1項は建築物で、第2項が土木構造物を規定している。その中でこの要綱の対象土木構造物は、本市が建設する土木構造物のうち、道路の新設、改良工事、または橋りょう等の新

設、架け換え、改修等を行うものであって、特に美観的な配慮を必要とする道路または橋りょう等とする、こういったものを対象とすると述べている。

ただし、設計協議の対象となるもの、コンペ（設計競技）、設計や工期等に特別な制約を受けるもの及び極めて小規模なものを除くとある。今回、この工期等に特別な制約を受けるものに該当するので、対象としないというものである。もう一度、理由の1番から説明させていただく。

この橋りょうは当初、平成29年に詳細設計を行うことで計画していたが、平成26年8月に発生した豪雨災害の被害を受けた地区の復興に係るまちづくりビジョン、これを平成27年3月に策定しているが、この計画に位置付けられ、昨年夏から国の内示を受け、急遽設計を行うこととなり、平成28年度の4月に着工することとなったので、設計期間に大きな制約を受けることになった。

それから2番目、橋りょうという形態上、主にデザインを検討できる部分は高欄、照明に限られること。今回は広範囲な災害復興を最優先とするため、当該施設における配分予算も限られており、高欄、照明も既製品を使用することとしており、デザイン的な自由度が低いということがある。

それから3番目、上記設計の制約の中で、当該橋りょうに地元の方々に愛着を持っていただくため、高欄、照明についても、住民の方々の要望を踏まえて可部の街に合ったものとしてくようにしている。

以上、3点の理由からこのアドバイザー会議の対象外としたいと考えている。名称は都市計画道路高陽可部線（3工区）の橋りょう。新設場所は安佐北区可部東2丁目。橋りょう延長が75メートル、橋りょう構造はPC3径間連結プレテンション方式床版橋である。

なお、本会議の橋りょうの専門委員である藤井先生に事前に説明をさせていただいて、アドバイスも含め了承をいただいている。

ということで、この件についてはアドバイザー会議の対象から外させていただくという報告である。

○岡河座長

こういう事情というか、状況と理由が明確になっておるということで、御異議なければそのように進めていただく。

（「異議なし」との声あり）

○萬ヶ原都市デザイン担当課長 議事案件概要説明

○岡河座長

これから議事1の新しいタイプの高等学校整備についての第2回目である。前回、第1回目の会議で各委員より頂いた御意見について検討した結果を説明していただく。

○橋本営繕課課長補佐

(議事1「新しいタイプの高等学校整備について」2回目の説明)

○岡河座長

各委員の先生からそれぞれお気づきになったことについて御意見いただきます。

○伏見委員

コストダウンについて、この1から5までで、当初計画から幾らコストダウンになっているのか。具体的に教えていただきたい。

それから、樹木を残すところと新しい樹木というところについて、第1回目では樹種まではまだ全然決まっていなかったことだったが、憩いの場としてということなので、そろそろ決まっていれば教えていただきたい。

○橋本営繕課課長補佐

今回の大きな点については約4億円程度削減している。

憩いの広場の樹種に関してはクスノキを考えている。

○伏見委員

全てクスノキにすると、成長すると巨大になるので、このピッチでは対応しきれないと思う。

○設計業務受託者

交流広場、校門入ってすぐのところについては、クスノキで考えている。屋内運動場右側のところについてはクスノキで考えているが、周辺の樹木については、それ以外のものと考えようとしている。

○伏見委員

大きく、何十メートルとなる象徴的な木である。それ全部クスノキでいかれるのか。

○設計業務受託者

今のところは全部クスノキでいこうと思っている。それだけ、ここについては緑濃くとか、まちの中の緑、緑地帯というのが、その川辺のところも緑地帯があるが、ここがちょっと薄れてきている。あと、住民との接点もあるので、ここに一つ大きな緑の場所を作って、更に、ここに実際は通り抜けを考えていたが、そこを歩いて川べりのほうにも行

けるようにということで、こちらの緑、川につながっていく一つの学校と住民を結ぶ、地域の接点としての森みたいなもの。そこから学校を介して川へ行く、緑とか水という空間のつながりを考えたときに、一番象徴的で、なおかつ落葉にならなくてというものを考え、広島であればクスノキであろうということで、クスノキにさせていただいている。

○伏見委員

ただ、常緑ではあるけど、クスノキはかなり膨大な葉っぱが落ちるので、落ち葉の掃除、メンテナンスをどうされるかということが課題と思う。

それと、クスノキは成長してくると足元が暗くなり過ぎるのではないかと思うので、その辺もメンテナンスをしながら進めていかないと、気持ちのいい空間にはならないと思うので、長期的なメンテナンス計画が必要と思う。

○西村委員

ガラス屋根の配慮もいただいて、この案で私は十分じゃないかと思う。

○岡河座長

特徴的な西の川に向かって、ファサードをどうするかということについて、1つは工期のこともあって、プレキャストコンクリートで構築すると。それは、割とコストが高いので、ほかのところでコスト削減しながらベストを尽くそうと。ここの西側のテラスがかなり印象的な学校になるということ。あとは外壁のタイル。この辺のことを少しアドバイスしていただければ。

○鰐澤委員

タイルというのは縦にしている茶色のことか。タイルの具体的なものは、今あるか。

○設計業務受託者

単品のサンプルであればある。これを採用するかどうかというのはあるが、一応こんなイメージで考えているというものをお見せする。（タイル見本を提示）

艶ありのものと、少し艶があるものと、マットのものとを組み合わせる。川べりにある建物ということで、釉薬がかかっているものはちょっときらっとするような形で、川面と対比できるようなものにしていこうと考えた。それ以外のものはシックに落ちついた色のもの、日の光が当たると表情が出てくるようなイメージを持ってこの壁面を作ったということを考えて。

○鰐澤委員

この中からどれかを選ぶということではないのか。

○設計業務受託者

これらのタイルをパーセンテージを変えてミックスして使っていこうと考えている。

○鰐澤委員

2つの艶のあるタイルはストライプが入っている。もう一つのマットのやつはストライプが入ってない。あえてそういうのを選ばれた。その理由は何かあるか。

○設計業務受託者

きらきらと光るときに縦縞。ちょっと縞があることによって、光り方も他のタイルとちょっと違うのではないかなと。マットなところはそのままの地が出てくるようなイメージで考えており、その比率である。きらきらするものはちょっと少なめに入れて落ち着かせるとともに、日が当たったり、川面との対象がちょっと際立ってくるようなことができればいいなということを考えている。

○鰐澤委員

例えば、それが3種類のタイルを選ばれているので、具体的にストライプ状になるとか、縦縞になるとか、何かあるのか。

○設計業務受託者

それを縦縞に、ちょっと光るものを入れていきながら。横に流すのではなくて、縦に流していくという方向もあるかなという気はしている。

○鰐澤委員

個人的な趣味だが、余り光るものは好きじゃないので、やはりマットなほうがいいかなと思う。横の、この白っぽいラインが美しい。右側のグリッドもきれいに見える。トータルに考えればマットのほうがいいかなと思う。

○岡河座長

余り光らせずに光を吸収したらどうかというアドバイスか。

○鰐澤委員

川の水面との関係というのは余り考えたことないが、やっぱりあるものなのか。

○岡河座長

川との対比だが、木とのバランスのほうが恐らく建物としては大事だと思う。そのときに、木の葉っぱというのは余り光らない。だから、マットなタイルというのはかなり落ちついた建物の感じになって、それがかえって全体の自然となる。この建物は自然のすぐ横にある。よいのではないかというイメージがしている。

○設計業務受託者

逆にタイルをマットにすることによって、周りの自然を際立たせてというような。

○岡河座長

自然と一緒になるということ。自然と一体になった建物の印象になるのではないかと
いうことである。

○柏尾委員

私も基本的にはマットでいかれたらと思う。理由は、鰐澤先生がおっしゃったようなこ
とだと思う。カラーミックスさせていくということについては賛成である。これぐらいの
色差を持たせていくということは大事だと思う。ペラっと感というのがどうしても出てき
てしまうので、3枚、色違いになるが、これぐらいの差で配置していかれるといいのでは
ないかと思う。

全体の明るさの印象だが、この明るさについて、この建物に入ってくるときに、この色
表でここのタイルを確認した。ここの議事堂の建物よりもちょっと明るめになっているが、
それぐらいでいいかなど。ちょっと暗めの印象があるので。

この光るものについては、今回これが西面になるから、西面は正面から日が当たるので、
その反射の問題からも、西面についてはどうかと思う。

もう一つは塗装壁の色については具体的なサンプルはあるか。

○設計業務受託者

具体的なサンプルはないが、基本的にはP C板の打ち放しに撥水剤塗りになっているの
で、コンクリートの色がそのまま、ちょっと濡れたようなイメージが出てくると思う。

○柏尾委員

コンビネーションということであれば、問題ないかと思う。

クスノキについては、その木の間隔はちょっと気になる。クスノキの場合は必ず横に成
長するので、ここは吟味する必要がある。街路樹でいったら、例えば県立美術館の横の歩
道に植わっている。あそこは美術館が建って、今年で20年になりが、もう毎年、横の枝
の伐採が大変である。切るたびに不格好になっていく。やっぱりグリーンという空間を大
事にするのであれば、自然な広がり方できれいに見える、そういった樹木で探されて、常
緑樹にこだわりがあればクスノキになるかなど。

○岡河座長

鰐澤先生、実はそのマットで3種類のタイルを使うと仮定するとして、ある程度グラフ

イカルな線が見えるようにするほうがいいのか、ランダムに割と全体ぼんやりした面にするかについてはどういうふうにイメージされているか。

○鰐澤委員

やってみないと分からないが、横に広がっている建物なので、すごく重い感じはするだろう。それが反対に力強くていいという見方もあるし、軽々としたほうが軽やかでいいという意見もあるとは思う。

○岡河座長

恐らく、プレキャストのコンクリートなので、かなり重厚な感じがすると。

私は、プレキャストのところにもアースカラーで色を塗られるというのはなくてもいいと思う。プレキャストのコンクリートは非常に質感がいい。養生が工場で非常にきちっとしているのです。

○鰐澤委員

あれでいくとどのくらいの色か。

○岡河座長

今、白っぽい色とグレーがある。恐らくグレーぐらいになる。白っぽい色を塗らずに、全部コンクリートの色合いで。私は素材のままのほうがタイルとはうまくマッチするかと。重厚な、どちらかといえば力強い、しっかりとした学校の感じになるのではないかという気がする。ぜひその辺は、プレキャストでせつかくおやりになるから、お化粧するよりは、やっぱりプレキャストの質感を見せ、タイルも自然の色を見せるということが、よいような感じがする。

なかなかプレキャストの建築物というのは、工場で養生したりするので値段が高い。その代わり工場で組み立てているので、工期が短くなる。それから、コンクリートが現場で乾くのではなくて、工場できちっと養生しながら固めて乾いていくので、非常に強いしっかりした表面のコンクリートになる。実物も今度、見る機会があったら比べられるとおもしろいと思う。

○柏尾委員

この目地の深さはどれぐらいか。

○設計業務受託者

この絵では目地幅はちょっと大きなものになっているが、今のイメージとしては、そんな感じである。ただ、タイルも大きいので、あまり細かい目地だとタイルの良さも出てこな

と思うので、ちょっと大きめの目地にできたらなとは思っている。

目地の色はコンクリート色、グレー色でいけたらいいと思っている。

○岡河座長

タイルに少しストライプが入っているのは、実は昔の大学の建物のタイル、割とこういうのを使っている。昔の旧制の大学。広島でも広島大学の医学部の校舎なんか多分こういう筋の入ったタイルで、結構落ちついた、学問をやる場所の感じの、今まではそういう感じのところ使われていたような感じ。大変よいのではないかと思う。

○柏尾委員

この縦の部分の目地、ここも大事である。白でやるのと黒でやるのとグレーでやるのでは全く印象が変わる。

○設計業務受託者

本当にタイル張ってみないと分からないというところも多分あると思うが、基本はグレイ系になる。黒だと、かなり目地が目立ってきてしまうという気もする。

○柏尾委員

黒ではないと思う。

○岡河座長

多分、一番いいのは、コンクリートの色にできるだけ合わせた色の目地にすると、あんまり失敗がないのではないかという気がする。その辺は、現場での微妙な調整である。

○西村委員

壁面のタイルについて、こちらの壁面は西日が当たるので、ここへ向かって反射する分と、川面に当たってからここに行く分との2つの影が大きく出てくると思う。そこで、果たしてマットがいいのか、あるいはさっき提案にあったように、縦のストライプが入ったようなものを縦に並べるか。ここも考えてみる価値はありそうである。

○岡河座長

西村委員は、少し光るものもまぜたらどうかという御意見か。

○西村委員

そうである。壁面が西側ということは、これから先、冬場でも割と長い時間、日が当たる。こちらが全部川になっているので、相当、日の当たる時間は長いと思う。そこでマットのほうがいいのか、こういったきらきらが間に入るのがいいのかということである。

○岡河座長

私の印象で、マットな建物でいいなと思うのは、広島だと幟町のカトリック教会である。あれは完全にマットで大変落ちついたいい感じ。上手なのは、少しデコボコが付いているところ。あれぐらいの割合で少し光るものが入っていてもいいかなと。この色の中でのパーセントと、幟町の教会を参考にされて、どれぐらいの割合でちょっと光るのが入るのというのを御検討されたらどうか。広島の中にある建物であるコンテキストというのか、そういう感じはちょっとする。本当は1度、タイルの張り見本みたいなものを見て。もし可能なら鰐澤先生とか色彩の御専門の先生に見ていただいて検討できるようなことができれば、よいのではと思う。

僕も建築に対して、タイルは実物1メートル角ぐらいで張ってもらって、3つぐらい置いて、ちょっと遠くからみんなで見えて、これがいいかというのが本当はいいので、もし御足労いとわないということであれば、是非、そういうこともされてみたらどうかと思う。

エネルギー計画について、基本的には吹き抜け部トップに排風機を設置するということで、自然の風の流れプラス人工的に風を流して、より省エネの、空調を使わないところで涼しくするということが1つと。自然換気の場合でも開閉し風量を制御する装置をつける。この装置というのはどういうものか。自動的にセンサーですとかそういうものか。

○設計業務受託者

そうである。このハイサイドライト、一番上のここの窓が、外部の風量とかそれに合わせて開閉を自動的にする装置が入れている。だから、雨が降ってくると、自動的に雨が入らないようになるという装置をセンサーと共に設けるようにしている。風の時間の場合は、やはり風が止まるので。その時は、同じようなガラスのところに付けた排風機によって風を強制的に出してやることによって、下から風を吸引してくるという計画にしている。

○岡河座長

排風機は要するに扇風機か。換気扇が回っているということか。

○設計業務受託者

そうである。

○岡河座長

そこに関連する西側の日射対策として、庇やルーバーで。庇は大きくなった部分がある。それから縦型のブラインドの設置可能な窓周りにすると、これは縦型のブラインドを付けるということか。

○設計業務受託者

そうである。今は、この中に縦型のブラインドを入れる計画にしている。やはり西日になるので、横型ブラインドでは全然おさまらないので、縦型ブラインドで計画している。

○岡河座長

自然風を使った省エネについては、ここで少しそれを強力にするということか。

○設計業務受託者

そうである。このステップラウンジの吹き抜けを特に利用した空調がこの建物と学校の売りでもあったので、それを最大限に強調するものになっている。

○岡河座長

この建物が真ん中に大きな吹き抜けがあって、そこが吹き抜けであると同時に風の縦の通り道になるということで、いわゆる全館空調ではなくて、教室以外のところの温度、湿度を調整するということか。

○設計業務受託者

そうである。

○西村委員

クスノキについて、私もどうかと思っている。

○岡河座長

クスノキ、確かに何百年も経つとももの凄く大きくなる。

○設計業務受託者

樹木は、もう一度考えるが、既存で残そうとしているこの1本のグリーンの木が、あと、こちらもだが、みんなクスノキだった。それを踏襲していこうという考えがあった。最初はケヤキとかもいいかと思っていたが、やっぱり毎年落ち葉がすごく、メンテナンスが大変ということがあったので、ここはできるだけ常緑でという考えでやっていた。ただ、常緑の木で、まだほかにも木はあると思うので。

それと、全部クスノキではなくて、クスノキが何本かある中にほかの木も混ぜていく形もあるのかなど。象徴的に、例えばこの真ん中の大きくなってもいいような2本についてはクスノキにして、あと周りの木は別の木にするということに対応できると思う。

○岡河座長

是非検討していただきたい。先日、明治神宮の森を設計したときのテレビ番組を見たが、実は100年、150年後をちゃんと考えて、最初から最終的にはああいう、まるで自然のような森になるようにという植え方をしたらしいので、ぜひ100年、200年後ぐらいまでのシミ

ュレーションぐらいで考えていただいて、大体どれぐらいになるかなということで、最終的には検討されたらどうかと思う。木も大事な要素の、時間軸を取り入れた木のデザインということで、是非それを。

○設計業務受託者

分かった。

○岡河座長

コスト削減については、大体うまく収まりそうか。

○橋本営繕課課長補佐

そうである。

○岡河座長

先ほど、プレキャストコンクリートの予算もうまく利用するような形でコスト削減も更に、その塗装部でしていただいて、進めていただければと思う。

鰐澤先生と柏尾先生、タイルのことについて、もし何かあるということであれば、是非よろしくお願ひしたい。

本日予定していた議事については以上である。議事進行を事務局に願ひする。

○萬ヶ原都市デザイン担当課長

本日は、貴重な御意見、御提案を頂いたので、担当課において再度検討いただき、最終結果についてはまた次回、報告を願ひする。

なお、次回のアドバイザー会議は3月後半ごろに予定している。日程等については別途御案内させていただくので、よろしく願ひする。